

平成25年8月31日

各位

株式会社 徳 ・ 株式会社 傳六  
ノリックス株式会社 ・ 有限会社 和公  
代表取締役 鷺岡和徳

前略、今月も業務に専心いただきありがとうございます。

昨年と同様に今年の夏も記録的な猛暑日が続き、営業ならびに配送担当者をはじめとする従業員の皆様にはとてもしんどい夏だったと思います。しかしそんな状況の中でもお客さまに喜んでいただける料理と接遇の提供が出来、多くのお客さまから利用してよかったというアンケートをいただきましたことに対し皆様に感謝と御礼を申し上げます。

さて、先日堺にある有名なパスタのお店に一人で訪問してきました。お店の方におすすめはと聞くと「一番売れているのが中華風スパゲティ」と言われ、悪い予感がしながらもそれを注文しました。出てきたスパゲティはパスタに白菜キムチを入れ豆板醤を足したもので酸っぱく辛く「中華風じゃなくて韓国風やん！」とひとり心の中で突っ込んでいました。正直私の口には合いませんでしたし900円の価格も高いと思いました。しかし、後から考えると私以外の多くの客はこのスパゲティを美味しいと思い注文し、美味しいと感じてブログ等で絶賛しています。そのときは私の嗜好や口がおかしいのかなと思いましたが、これが「世の中の流れ」と言うものだと気づきました。YOMIURI ONLINEの記事に「日本人が最も食べている漬物はキムチ」との一文があり、同記事では、「平成22年の野菜・果実漬物の生産量873万トンのうち、キムチは191万トンで約22%を占め、浅漬の155万トンを上回る（食品需給研究センター調べ）」そしてキムチと日本人の関係についても「キムチやコチュジャンの味に日本人の舌はなじんでいる」と書かれていました。普段キムチを食さない私の好みと、世の一般の方の好み乖離している事に気づきました。温故知新という言葉があります。この言葉の本当の意味は「故きをたずねて新しきを知る」ではなく、「故きを（大切に）温めて新しきを知る」です。古い事柄から新しい事を知る事は物理的に不可能です。自身が以前に習ったことや昔のことをしっかりと習熟して新しいことを知ることができるならば、師（先生）となることができます。と言う意味で、今回の件で言えば「パスタとはそもそも何なのか。」「いつからどのように食べられてきたのか」「世界中にどんなパスタと文化があるのか」を知らなければ、安易に具と麺の相性や美味しい・不味いを語る資格はないという事に気づきました。今の時代に企業が革新性を見いだすには、すべての事柄に好奇心を持って物事の本質を見つけ探求することが必要不可欠です。そのような事に気づく事ができるお店でした。

## 「一膳入魂」

「私たちはお客様のために常に新しいことに挑戦し、食生活に新たな価値を創造しつづけます。」  
すべては自分のために。

すべてはお客様のために。

すべては会社のために。

すべては社会のために。

来月も一緒に頑張りましょう。

草々